2018.5.17
再巻 183 号

あんさんぶる

●2018/6 月例会　No.618

小林　愛実（あいみ）ピアノ・リサイタル

２０１５年ショパン・コンクールファイナリスト♬

プログラム

ベートーヴェン　：　ピアノ・ソナタ　第 14 番
　　嬰ハ短調　ＯＰ.27-2「月光」
ベートーヴェン　：　ピアノ・ソナタ　第 26 番
　　変ホ長調　OP.81a「告別」

♠♤♠　休　　憩　♠♤♠

リ　ス　ト　：　巡礼の年第２年「イタリア」より
　　ペトラルカのソネット　第　４７番
　　〃　　第１０４番
　　〃　　第１２３番
リ　ス　ト　：　巡礼の年第２年「イタリア」より
　　「ダンテを読んで～ソナタ風幻想曲」

2018 年
6 月 7 日（木）

午後 7 時開演　あわぎんホール
（開場 6 時 30 分）　（郷土文化会館）

市民コンサート徳島　☎（088）652-4874　　FAX652-3251
http://concert-tokusima.com または市民コンサート徳島で検索
770-0831　徳島市寺島本町西 2 丁目 16 竹内ビル 3F（郷土文化会館向い）

❦❦❦ 曲 目 解 説 ❦❦❦

ベートーヴェン（1770～1827）／ピアノ・ソナタ第 14 番嬰ハ短調 OP.27-2「月光」

この曲は、第 13 番 OP.27-1 と同様に、ベートーヴェン自身により「幻想曲風ソナタ」と命名されています。「月光」という俗称は「スイスのルツェルン湖の月夜に、さざ波に揺らぐ小舟のようである」と詩人ルートヴィヒ・レルシュタープが形容したのに由来します。ベートーヴェンはこの曲に於いて、作品の重点を終楽章に於くという実験的創作を試みています。第 1 楽章も第 2 楽章も終楽章に対する二つの前奏曲と考えることが出来ます。

第 1 楽章：アダージョ・ソステヌート、嬰ハ短調、2 分の 2 拍子
ソナタ形式と解釈するか否かはさておくとして、この楽章は 3 部分からなっています。

第 2 楽章：アレグレット、変ニ長調、4 分の 3 拍子
トリオ部を持つ複合 3 部形式で、新しい気分を持った音楽です。

第 3 楽章：プレスト・アジタート、嬰ハ短調、4 分の 4 拍子、ソナタ形式
音楽的内容とピアニスティックな効果に於いて、この時点までにベートーヴェンの作曲した最も充実した音楽です。

ベートーヴェン（1770～1827）／ピアノ・ソナタ第 26 番変ホ長調 OP.81a「告別」

ベートーヴェン自身が名付けたこの「告別」というタイトルは、厳密にいえば、この曲全体に名付けられたタイトルではありません。それは三つの楽章各々の冒頭に付された標題の「告別」-「不在」-「再会」の第 1 楽章用のものを指して「告別」と呼ばれています。

この作品は、ベートーヴェンの弟子であり、最有力の保護者でもあったルドルフ大公との別離から生まれました。1809 年春、ナポレオン率いるフランス軍がオーストリーに侵攻し、占領しました。これに先立ち、ハプスブルク家の王皇一族のルドルフ大公は、ウィーンから一時疎開をやむなくされました。そして、同年 11 月にフランス軍が立ち去った後、帰ってきます。この動きが、各楽章のタイトルとして付けられています。

第 1 楽章：「告別」アダージョ、変ホ長調、4 分の 2 拍子
表情深い下行 3 音が「レーベヴォール」と記された序奏部主題を提示して始まります。

第 2 楽章：「不在」アンダンテ・エスプレッシーヴォ、ハ短調、4 分の 2 拍子
緩やかな動きをもって、しかし、表情豊かにとドイツ語表記が付けられています。

第 3 楽章：「再会」ヴィヴァツィッシマメンテ、変ホ長調、8 分の 6 拍子
最も生き生きしたテンポで。喜びに満ち、軽快で明るいソナタ形式。

リスト（1811-1886）／巡礼の年第２年「イタリア」より

リストは、1837 年から 39 年にかけてダグー伯爵夫人マリーと長女ブランディーヌを伴ってイタリアに旅行しました。この一連の７曲は、そうしたイタリア旅行から作曲されたものです。第１年「スイス」が主に、自然の風物を表現しているのに対して、ここでは文学や絵画などの偉大な芸術から霊感を受けて作曲しているのが特色です。リストは、ペトラルカの詩集「カンツォニエーレ」から３つのソネットを選んで、テノール独唱用の歌曲を作曲しました。そして、それをすぐにピアノ独奏用に編曲して、この「巡礼の年」の中に入れました。

❦ペトラルカのソネット　第 47 番

第４曲目で、幸福の虜になった自分の心を深い感動を持って表現しています。

❦ペトラルカのソネット　第 104 番

第５曲目で、様々な心の動きをロマン的に表現しています。

❦ペトラルカのソネット　第 123 番

第６曲目で、美しい人へのあこがれを甘美な叙情性をもって表現しています。

リスト（1811-1886）／巡礼の年第２年「イタリア」より

❦「ダンテを読んで～ソナタ風幻想曲」

同、「イタリア」の第７曲目で、ユーゴーの詩集の中の同名の詩から霊感を受けて作曲したものです。

ダンテの「神曲」第 1 部＜地獄篇＞に描かれた恐ろしい情景を幻想的に表現しています。そしてこの曲は、≪ダンテ・ソナタ≫と呼ばれ有名な曲でもあります。

リストは 1830 年代、最初の伴侶となったマリー・ダグー伯爵夫人と一緒に、ダンテの「神曲」を何度も読んでおり、のちにリストは≪ダンテ交響曲≫（1855-56）も書くほどで、「神曲」には大きな感銘を受けたものと思われます。また、表面の技術の難しさだけでなく、詰まっている音楽の濃さ、多彩さなどピアニスト泣かせの巨大な作品となっています。

♥♡♥　演奏家プロフィール　♥♡♥

小林 愛実(こばやし・あいみ)

1995 年９月 23 日山口県宇部市生まれ。
現在、東京都/フィラデルフィア在住。
８歳より二宮裕子氏に師事し、2011 年桐朋学園大学付属高校音楽科に全額奨学金特待生として入学。

2013 年よりフィラデルフィア･カーティス音楽院に留学。現在、マンチェ・リュウ教授に師事し研鑽を積んでいる。

３歳からピアノを始め７歳でオーケストラと共演、９歳で国際デビューを果たす。

2004 年（8 歳）ピティナ・ピアノコンペティション Jr.G 級（16 歳以下）出場最年少で金賞。

2005 年（9 歳）全日本学生音楽コンクールに史上最年少優勝。

2011 年ショパンコンクール in Asia アジア大会、コンチェルトの最高部門で金賞。

2015 年ショパン国際コンクールにて、ファイナリストに選出された。

2010 年（14 歳）「デビュー！」で CD メジャーデビュー、翌年セカンドアルバム「熱情」をリリース。今年４月には、最新アルバム「リスト＆ショパンを弾く」をリリースした。

今、世界的な活躍が期待できる日本の若手ピアニストとして最も注目を集めている。

バックステージ　　４月例会（赤坂／高橋例会）の交流会から

４月例会の赤坂智子さんと高橋礼恵さんの例会交流会は，参加人数は少なかったものの，音楽について耳寄りな話が多く聞かれ，楽しい会となりました。

当日のお話の中から，いくつか拾ってみます。

徳島でのリサイタルの感想をお聞かせください。

ステージに出た瞬間に，会場の雰囲気はわかります。最初，聴衆のみなさんがじっと聴いている感じがわからなくて，緊張しました。初めて体験するタイプの聴衆でした。笑う時も，ワンテンポ遅れて笑う感じがしました。でも，よく見ると聴いていることがわかりました。きっと熱心に聴いてくれているのだと思いました。徳島の人は，聴き上手なのでしょう。ダンスの話をすると，話に食いついてきてくれたので，阿波踊りの県民性があるのだろうと思いました。（赤坂さん）

ブラームスの演奏が印象的でしたが，ブラームスについてお話しください。

ブラームスの音楽は整然としているから美しいです。ブラームスの音楽はどっしりしているだけでなく，複雑に色が交じっている感じがします。とっつきにくいけれど，その音楽の内部を探してみると，必ず発見があります。かめばかむほど，味が出てくるのがブラームスのような気がします。（赤坂さん）

わたしは，室内楽から入って，ブラームスのピアノ曲がわかるようになってきました。（高橋さん）

ブラームスの音楽は，モザイクのようにパーツが組み合わさってできているように思いますが・・・。

音楽と数学は似ている感じがします。バッハの音楽などは，「倍数」が重視されていることを感じます。ブラームスの音楽は，練習をやっていて，いつも新たな発見があるのですが，小さなパーツが組み合わさってできていることを感じます。（赤坂さん）

（この後もブラームスについて熱い話が続きました）

赤坂さんのヴィオラは，古いものなのでしょうか。

ポリテリオーネというイタリアのナポリでつくられた楽器です。１８２７年製です。

音楽を楽しんでいるお二人だなと思いました。練習をしている時に新たな発見をして，喜び合う話など，その一例だなと思いました。

例会のアンケートをお見せすると，お二人とも熱心に読んでおられました。とくに子どもの感想は楽しそうに目を細めて読んでいらっしゃいました。「今日の演奏は１００００点中の１００００点です」という「評価」には大喜びされていました。

これからの日本の音楽界を背負っていかれるお二人です。次回はどんな演奏を聴かせてくださるか，今から楽しみです。

（機関紙部　鎌田憲二）

桜舞う　ビオラ・ピアノの楽に酔ひ　天上高く　月の舟行く

～赤坂智子／高橋礼恵デュオ・リサイタル

2018 年 4 月 3 日（火）　郷土文化会館（あわぎんホール）

★二人の息の合った演奏，いつまでも聴いていたい心地良いものでした。　（たおのプーさん）

★歳をとると，ブラームスの２曲はしみじみと聞かせてもらい，「悲愴」は若い時の情熱を思い出させてくれた。高橋礼恵さんのピアノは素晴らしかった。

（めだか　井上　尚）

★曲の説明がていねいで，とてもわかりやすかったです。また，コアなお話をたくさんしていただいて，その時代の背景を知ることの大切さが良くわかりました。

（坂東　美子）

★ベルリンで暮らしながら音楽の世界で活躍されているお二人の，ある物を越えたように生きているお姿に，すごい刺激を受けました。　（マミさん）

★それぞれが独立した大人のお二人のデュオは安心と安らぎを与えてくれました。二つの音が溶け合って行く様で気持ちのよい一時でした。　（コスモス　加藤　孝子）

★曲の説明がよくわかっておもしろかったです。（ととろ）

★ひさびさにビオラをまとまって聴きました。落ち着いた感じがよいと思いました。　（中尾　賢一）

★Ｖａの演奏会を聞く機会はめったに無いので良かった。Ｖａのいぶし銀の音色，いいですね。

★桜舞う　ビオラ・ピアノの楽に酔ひ　天上高く　月の舟行く♪　知的音楽の楽しみを教えていただいた。どうもありがとうございました。　（アルカディア　天野　大）

★それぞれのソロもよかったが，ピアノとヴィオラのデュエットでは，ピアノとヴィオラの音色がとてもあっていて，その音が全体に広がる感じがして，とてもきれいだった。　（桑原　実玖）

★高橋さんの指さばきが，ベルリン在住のためか，女性なのにすごいなと思いました。　（マコ）

★ヴィオラのソロ・リサイタルは初めて聴いたが，ヴァイオリンにはない音の厚みが新鮮だった。高橋さんのピアノを聴くのは３度目になるが，「悲愴」を聴けたのは大変良かった。　（桑原　佳宏）

★高橋さんのピアノの音色のよさにあらためて感動しました。ビオラの赤坂さんも久しぶりで楽しかった。ヴァイオリンとの音色の差もあらためて感じられてよかったと思いました。楽器の歴史についてのお話もおもしろかった。

★ピアノ・ビオラとも最高にすばらしかった。何度でもききたいです。

★ビオラの無伴奏はとても新鮮でした。

（たおのプーさん　田尾　幹司）

★演奏だけでなく，知識を深めることのできた有意義なコンサートでした。

★生で聴く機会のなかなかない曲が聴けた。

★オーケストラの中での，ヴィオラの響きが好きで，今日は楽しみにして来ましたが，いい意味で裏切られました。オケの中でとはまた違うヴィオラの響きに感激しました。

★ピアノソロは，本当にすばらしかった。音色がどんどん変わり，引き込まれました。お二人の人柄が魅力的で，音楽感が最高でした。　（福田　淳子）

★あっさりと難曲を弾かれる。やっぱりプロの方は，ただただ素晴らしいと思う。最近まで超忙しかったから，春が一気に来て，今日の演奏は，私へのプレゼントみたい。

★楽曲についてのお話がおもしろかったです。ヴィオラがドラマティックですばらしかった。ピアノはしっとりとして心地よかったです。

★ビオラの語りかけてくるような音色が素敵でした。ピアノとのかけあいもすばらしく，とてもぜいたくなコンサートでした。　（マリンブルー　吉田）

★２０年前のビオラコンサート，印象に残っています。素晴らしい楽器で，異様に鳴っていたのを覚えています。ついこの前のことの様に思っていたのに，２０年も経ってしまったんですね。、満開の桜の季節にふさわしい，素晴らしい演奏だと思いました。お二人の息もぴったりでした。

★ベートーヴェンのソナタ「悲愴」はすばらしかった。ブラームスのヴィオラ・ソナタも見事だった。バッハは今はやりのピュアトーンがみられた。いずれも名演だった。

（シロメダカ３３７７）

★ヴィオラのやわらかい音色が楽しめてよかったです！とてもきれいでした。　（ぽこあぽこ　岡久　凜香）

★二人のピアノとヴィオラが重なり合ってできるメロディーはすごくきれいでした。（ぽこあぽこ　濱田　共生）

★高橋さんのピアノの音はすきとおっていて，とてもいい音でした。私もいつかあんな音を出してみたいなと思いました。　（ぽこあぽこ　永井　小遥）

★ビオラならではのすてきな音色にうっとりしました。深い，低い音が心にしみて，高い，細い音は心にひびくようでした。　（ぽこあぽこ　福岡　帆奈）

★赤坂智子さんは，息つぎがうしろの方まで聞こえてきたり，音が会場の外まで聞こえているんじゃないかと思いました。高橋礼恵さんは，ペダルをふんでいないくらいわかりにくくすることができていました。二人とも，１００００／１００００点中。

（ぽこあぽこ　佐野　由衣）

★ヴァイオリンはよく聞くが，ビオラの音はあまり聞いたことがなかったので，よかったなと思った。音楽をとてもうたっていて，すてきだなあと思った。

（ぽこあぽこ　りす）

★曲の変化が分かりやすかったです。テンポのゆらし方が，自然でよかったです。二人の息が合っていて，すばらしい演奏でした。　（ぽこあぽこ　Ｍ．Ｋ）

★とてもきれいな音でした。体のゆらし方がよかったです。

（ぽこあぽこ　川田　萌永）

★２人とも，心をこめて演奏していて，心にひびきました。私はピアノをしています。今日の２人みたいに，１音１音，大切にかなでようと思いました。

（ぽこあぽこ　中西　莉菜）

★げん楽器といえば，ヴァイオリン！みたいな感じがしますけど，私はヴィオラやチェロが好きです。音の高さが好きというか，ちょうどよくてききやすいからです。ステキな音でした。ピアノのソロは大きな音がズッシリと重いけれど，よくひびいていて，美しい音でした。

（ぽこあぽこ　林　里咲）

★ヴィオラとピアノのいきがあっていて，きれいなひびきをきくことができました。本当によかったです。

（ぽこあぽこ　松浦　花）

★ビオラもピアノもすごく上手だった。悲愴ソナタは，自分も弾いたことがあるけど，２楽章をあんなに情感たっぷり弾いていて感動した。ビオラとピアノのメロディーもとても上手だった。　（ぽこあぽこ　ピアノ）

★とっても良かったです。きれいな音色の音がたくさんきけました。　（ぽこあぽこ　髙尾優一郎）

赤坂智子／高橋礼恵例会の運営担当のみなさん

加林さん，井形さん，岸本さん，門田さん（みゅーず），太田さん（ムーン・リバー），中西さん・林さん（ぽこあぽこ）

おつかれさまでした。

赤坂さん・高橋さんのサイン色紙当選者

田尾　智子さん（たおのプーさん）

岡久　凜香さん（ぽこあぽこ）

井上　　尚さん（めだか）

おめでとうございます。

６月例会の会場でお受け取りください。

事務局通信

◉ 4月例会に花を添えて頂きました。

（※提供：大崎　訓子さん）

＜花束の紹介＞

椿、山吹、
白山吹
大根の花、
スイセン

＜アレンジ＞

椿、一重山吹
コンロン草

※ いつも、きれいなお花を
ありがとうございます。

◉ 演奏者に花束を渡して下さった方の紹介

2018年２月例会「広田 智之／オーボエ・リサイタル」2/14（水）に、今回も沖野恵子さん門下生の濱田 共生くん、福岡 帆奈さんが届けてくれました。

私はピアノの上川佳蓮さんに花束をお渡ししました。上川さんのピアノの音はすごくなめらかでびっくりしました。私も、上川さんのように滑らかに弾けるよう頑張りたいです。素敵な演奏をありがとうございました。

僕は、広田さんに花束を渡しました。とても大らかな方で、オーボエの音色が素敵でした。また、このコンサートに来てほしいです。

お世話になりました！

◉ 2018/6月例会（小林 愛実／ピアノ・リサイタル 例会時）運営担当の皆さん

ジョバンニ　　アルプス　　めだか　　タクト
ぽこあぽこ　　かもな園　　デュオ　　ひえ畑

個人会員でお名前（性）の頭文字が「**サ～タ行**」の方、よろしくお願いします。

※ 運営サークル会・日程： **5/17(木)　19:00～20:30　市民コンサート徳島・事務局にて**

※ 毎例会の前に、運営サークル会という会を開いて、当日の運営担当をお願いしています。
例会運営に参加し、会員の皆さんと親交を深めることもよい音楽に巡り合う時間となると

◉ 事務局からのお知らせです。

第43回市民コンサート寄席

桂文我独演会　公演日迫る!!

毎回好評の落語会。今年も開催します!!
と　き　5月23日（水）　6：30pm.
ところ　あわぎんホール　　4F 和室

皆さんご一緒に、おなかを抱えて笑いましょう。
たくさんのご来場をお待ち申し上げます。

◉　真に音楽を楽しむために　⑦

今回は、検討中の新しいホールへの要望。特に**小ホール**に対する要望について、考えたいと思います。

私達は今、市民コンサートの例会会場としてぜひとも欲しいのが、**小ホール**！それもちゃんとした**小ホール**です！
日本全国の、少なくとも県庁所在地の都市には全て備わっていて、徳島には残念ながら備わっていないものが、小さくとも**ちゃんとした小ホール**です。では、**ちゃんとした**・・・とは?

先ず、音響に配慮した、よい音のする**小ホール**。そして、室内楽やリサイタルにちょうど良い大きさの 300 席前後の客席数で固定席のホールで有ること。（200 席では少ない）この固定席というのは、重要なポイントです！
座り心地もさることながら、雑音を出しにくいことなど、可動式やパイプ椅子とは、安定感と言いグレードの差は歴然です。そして、生演奏用のホールにするべきです。多目的ホールにすると、反響板や緞帳、余分な照明設備、音響設備が必要になり、コスト高になります。ポピュラー系のバンド演奏ができるホールとは別物です。
何にでも使える・・・ということは、結局どちらにも不十分な、中途半端なホールということになってしまいます。

本来公共のホールの場合、大ホールと小ホール（又は、大、中、小）をセットで作るのが常識なのですが、徳島にはありませんでした。（小ホールと名付けられてはいるが、ホールとは、とても言えない部屋を備えた所は有りますが）
そもそも、大ホール、中ホール、小ホールと演奏の規模によって使い分けるのが、当たり前なのです。
是非、演奏家にも、聴衆にも、居心地の良い小ホールの実現を望みます。（続く）　　企画部：小路常芳

◉　会員のみなさんが、楽しめる音楽会のために

無料の託児所をご用意しています。

例会会場には小学生未満の幼児は入場できません。
託児ご希望の方は 5/31（木）までに事務局までご連絡ください。→　☎088-652-4874

会場内のエチケット

1. ・携帯電話のスイッチは必ず切っておきましょう。音だけでなく、液晶画面の光も気になります。
2. ・演奏中の入場や座席の移動はできません。遅れた時は、係員の指示に従ってください。
3. ・会場内の撮影（携帯含む）・録音・喫煙は固く禁じられています。
4. ・演奏中の私語は絶対にやめましょう。

地下駐車場のサービス券も、ご利用ください!!

ホームページでのお問い合わせも多くなっています。

◉市民コンサート徳島では、ホームページを開設しております。ご存知でしたか?
http://concert-tokusima.com または市民コンサート徳島で検索

◉会費の納入は前納制です。
例会当日もロビーで前納受付をしておりますが、事務局に来られられない方は、下記の口座振り込みをご利用ください。

郵便振替口座　01690-0-41663　／　市民コンサート徳島

◉事務所受付時間
月・火・金曜日 12：30～17：00／木曜日 18：30～20：00／水・木（昼間）・土・日・祝日休

市民コンサート徳島
これからの例会
2018 年

例会は、すべて郷土文化会館・大ホール
（あわぎんホール）
6:30ｐｍ開場／7:00ｐｍ開演

≪2018／8 月例会　619 回≫

横坂 源／無伴奏チェロ・リサイタル　8/27（月）、8/28（火）

～　バッハ/無伴奏チェロ組曲・全曲演奏会（全二夜）　～

一昨年のリサイタルで、豊かなチェロの響きで聴衆を魅了した、チェリストの横坂 源さんが、国内では初めてとなるバッハの無伴奏チェロ組曲（全 6 曲）全曲演奏に挑戦します。チェリストのバイブルともいわれるこの全 6 曲を、日本チェロ界のプリンス・横坂 源が、どのように聞かせてくれるのか、興味は尽きません。ご期待ください!!
尚、この演奏会は、二日間にわたるため、≪**市民コンサート徳島**≫と≪**横坂 源を聴く会**≫の共催で開催いたします。

≪ プ ロ グ ラ ム ≫

★第１夜 ： 無伴奏チェロ組曲　　8/27（月）

第１番　ト長調　BWV　1007
第２番　二短調　BWV　1008
第３番　ハ長調　BWV　1009

★第２夜 ： 無伴奏チェロ組曲　　8/28（火）

第４番　変ホ長調　BWV　1010
第５番　ハ短調　BWV　1011
第６番　二長調　BWV　1012

（※演奏順序は、変更する場合があります。）

≪これからの例会・ラインナップ≫

- 11 月例会　（620 回）
  萩原 麻未　ピアノ・リサイタル　　11/26（月）
  ドビュッシー没後 100 年記念/オール・ドビュッシープログラム
  ★ベルガマスク組曲/前奏曲集・第１巻　その他

- 2019.2 月例会　（621 回）
  室内楽コンサート　ピアノ＋弦楽５重奏　　2/26（火）

- 2019.4 月例会　（622 回）
  小川 明子　アルト・リサイタル　ピアノ：山田 啓明　4/16（火）
  （※2018 年８月例会の予定を延期していたリサイタルが、改めて実現します。）

（萩原 麻未）